

城の職人技：瓦

姫路城の高度な耐性を持つ瓦は窯で摂氏 1,150 度で 2 時間から 3 時間焼いて作られた。そのような高温で焼き上げられた瓦は、低温で焼き上げられた瓦よりも耐久性が高い。池田一族から酒井一族まで、江戸時代(1603–1867)の 2 世紀半姫路を治めていた一連の家族は文字通り自分たちにしるしを城に残したのだ。要塞の瓦にある家紋、アゲハチョウと桐の華は池田一族のもので、彼らは徳川将軍の下での最初の城主であった。瓦の丸い部分の端には城主の家紋の印が押されている。

瓦の種類

1. シャチ

この想像上の動物は虎のような頭と魚の体を持っている。ほとんどの場合、対で据え付けられ、シャチは建物を火事から守ると信じられている。屋根の頂上にある大きな 2 つを含め、11 のシャチが姫路城の天守閣の屋根を飾っている。

2. 棟の瓦

屋根の棟は 4 つの違った形の瓦でできている。弱い屋根の接合部から雨水の方向を変えるだけでなく、美的に感じのよい線を形成するために詰め込まれている。

3. 平たい瓦

4. 凹型の屋根瓦

5. 端が丸くなった軒の瓦

6. 水はけ瓦

7. 屋根の棟の端用で上に向いた瓦

8. 「悪魔瓦」(鬼瓦)

9. 隅の屋根瓦

鬼瓦（悪魔の瓦）は屋根の棟の端を飾る装飾瓦である。それらは普通架空の怪物の像を特徴としているが、姫路の鬼瓦には、城主の家紋、桃、木槌、波、銀杏の葉、さらには十字架など様々なデザインがある。

見て感じて

家紋の石刷りを作る

酒井家や本多家の家紋のコピーを作るため、一枚の紙を瓦の上に置きそれを鉛筆でこすってください。そのコピーはお土産として遠慮なくお持ち帰りください。